

かかりつけ医

札幌市医師会
しらかば台月寒東クリニック

いがらししんいち
五十嵐伸一

「かかりつけ医」とは…。日本医師会のホームページを閲覧すると「なんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医、専門医療機関を紹介でき、身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師」と。

開業して10年。地域の皆様と関わりながら、10年という年月を共に生き、歳を重ねてきましたが、「母を外来に連れてこれられなくなったので訪問して欲しい」、「定年退職後に認知症の父と同居して面倒を見なければならなくなったがどうしたらいいのか?」、「足腰が弱って介護サービスを受けたいのだけれどもどこに相談したらよいのか?」などと、さまざまな相談を受ける機会が多くなったと感じておりましたところ、2020年初頭新型コロナウイルスが大流行。未知のウイルスに対する不安に始まり、ワクチン接種での大混乱が予想されたため当院で行った取り組みをご紹介します。

「安心してワクチン接種してもらうため」に問題となるのは

①予約

電話予約は1回線しかないためつながらない、電話では日時がきちんと伝言できない。予約電話が殺到したら通常の問い合わせ業務に支障が出る。

この問題を解消すべく、

- ・クーポンが届く直前に定期通院している患者様全員に電話連絡。
- ・予約を電話ではなく外来の専用窓口で●月●日から行うので、クーポン持参の上来院してもらうように伝える。急いで来なくても全員必ず接種できることも。
- ・当日窓口で事前に準備していた1回目、2回目の日時の書いた予約券を渡し、問診票の抜けやすい場所を鉛筆でチェックして書き方を伝える。

これらの準備によって予約開始当日の開院前に10名くらいは並びましたが、混乱なくスムーズに次から次へと患者様が来院され、希望者の予約はほぼすべて完了。急がない方は定期通院の際に予約で全員対応できました。

②はじめてのワクチンに対する恐怖

さまざまなメディアを通してワクチンのネガティブな発言を目にする、耳にすることで接種に対する恐怖感が強いいため、正確な情報を提供し、副反応の対処方法を伝え、いつでも寄り添って支援すること

を伝えることで2回目も100%問題なく接種できました。

今回のワクチン接種を通して感じたのは、私たちが積極的に動いたことでまったくトラブルやクレームがなく、むしろ「こんなに楽に予約を取れるなんてありがたい!」「安心して接種できた!」と感謝の声まで頂き、混乱解消にかかる労力よりはるかに少ない時間と力でやり遂げられたこと。医療機関は今までは受動的な対応しかしておらず後手に回ってしまうことが多かったと思いますが、積極的に患者様に働きかけることで不安を取り除き安心して健やかに生活できるよう努力すべきなのだと思います。

ワクチン接種は無事終わるも、次なる不安は周囲からジワジワと打ち寄せる感染の波。私の身近にも感染者が現れ、関わる日がとうとうやってきました。保健所の職員の皆様も24時間フル稼働で頑張っていただけでも感染者数の爆発的な増加により対応が難しくなっている中、「かかりつけ医」として動かねばと。感染者の中には超高齢の独居の方も多数おり、認知症を患っている方は症状が重症でなければ入院どころかホテル療養も困難…。自覚症状の十分な訴えやスマホのアプリを用いての体調報告もできないため個人用防護具(PPE)を引っ提げて連日病状評価、治療のため往診に行っていました。モルヌピラビルを早期投与することで速やかに解熱するものの、呼吸器症状がなかなか改善せず、気管支炎を併発するケースが多く、統計的に4日目を乗り切れば重症化するリスクが低いのを参考に抗生剤を処方。訪問介護の皆様と毎日何度も連絡をとりながら体調を確認し10日間を無事乗り切りました!その経験を活かしクラスターや家庭内感染も対応させていただきましたが、強く思ったのは「いざ出陣!末端の私たちが「かかりつけ医」として動く時が来たのだ」と。